



今回は 2 月 20 日に行われた SGH 課題研究発表会(1 年生の部)について報告します。

## ◇ 本年度の 1 年生学年テーマは『中濃地区にインバウンドを』

各クラス 6 つの班が、共通テーマのもとクラスごと提案の発表を行いました。その結果、見事予選を勝ち抜いた学年代表の 7 つの班によるプレゼンテーションの内容は、以下の通りです。生徒たちは、中濃地区に海外からの旅行客を呼び込むための方法を、あの手・この手で考えました。実際の発表は各班 6 分程度でしたが、研究テーマを具体的に設定し、夏休みにはフィールドワークに行き、インタビューを行うなど、昨年度よりも更にグレードアップをした取り組みとなりました。以下、生徒の感想による発表紹介です。

### 1年1組 「未来へつなぐ中濃の光」

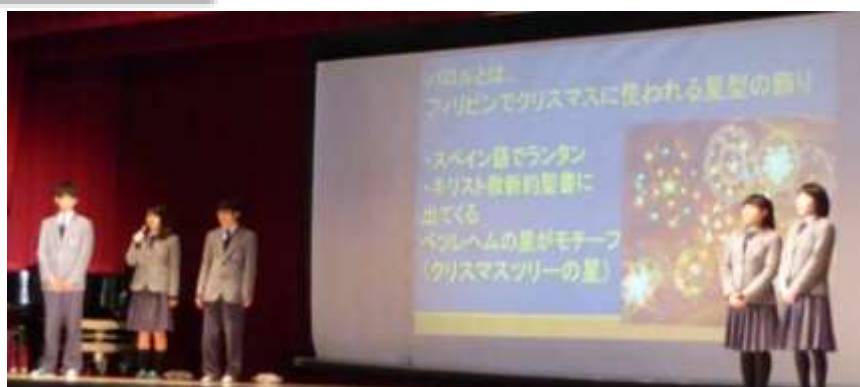
私たちは、中濃地区特産の材料でフィリピンのクリスマスの飾りである「パロル」を製作し、これを活用して美濃加茂市の定住外国人から中濃地区を発信していくという企画を提案しました。

SGHが始まってから最初のフィールドワーク

として、パロルで地域活性化を目指すダルモ・マイケルさん(岐阜農林高等学校3年生)と出会いました。彼からは、企画の内容、プレゼンの構成などで色々な指導を頂き、改善することを繰り返し、これまで約6ヶ月間活動してきました。厳しい指摘もあり、班全員で落ち込むこともありましたが、案を出し合って完成させることができました。その中で、内容面では情報の正確さ、根拠、あらゆる可能性を考えることの大切さを知りました。発表面では、内容に興味を持ってもらうための構成の大切さを知りました。



発表を終えて、苦労はありましたが、その分「よかったよ」などの良い評価が頂けて嬉しかったし、達成感がありました。また、SGHを通して、新しいものを生み出すことの難しさや大切さに気づけて、とても良い経験になりました。今後もこの経験を活かしていきたいです。



### 1年2組 「鮎・あゆ・アユ ～刃物と和紙には頼ってられない～」

僕達は、現在あるものとは違う観光資源を使って、中濃地区にインバウンドを呼び込もうと考えました。そこで鮎という食材に注目し、鮎を使い川の魅力を伝えることでインバウンドを呼び込もうと考えました。そして、鮎を使ったライスボールとレンコンのはさみ揚げという2つの商品を提案しました。

課題研究を進める中で、外国の方々が鮎というものを知っているかという問題に直面し、どのような方法を使って鮎を知ってもらおうかと考えました。日本人と外国人の文化の違い

について考えることができ、多文化共生などの学習になりました。

今回の発表を通して僕たちは、全体に伝えることの難しさを知りました。自分たちは企画を進めてきたのでどのようなイメージかを簡単に浮かべることができますが、初めて見る人にとっては分かりません。誰かに分かりやすく伝えるには、どのような方法を使うのか、見る人が最後まで楽しめるプレゼンをするにはどうすればよいのかなど、普段ではできない貴重な体験を通して新しい力を手に入れることが出来たと思います。

この課題研究を通じて、グローバル化が進む中、外国と日本の違いに触れ、新たな考えや視点を手に入れることが出来ました。今後も研究を進めて、さらに良い企画にしていきたいです。



### 1年3組 「関のテーマパーク計画」

僕たちは関市小屋名にある百年公園に目をつけました。そして、その百年公園を今よりもさらに盛り上げるために提案したのが『関のテーマパーク計画』です。この提案をするにあたって、僕たちは次の3点に重点を置きました。それは、幅広い世代の人が楽しめる施設、関の魅力を伝えられる施設、低価格高品質の3つです。また、百年公園をテーマパーク化するにあたって、最近ではSNSを使う人が増えていることから、SNSを利用して多くの人に関の百年公園について知ってもらおうと考えています。

研究にあたり、各々で行ったフィールドワークでは百年公園へは散歩にくるお年寄りや地域の人々がほとんどだという事が分かりました。また、楽しめる施設はあるのに、老朽化して長い間使用出来ていないものが多かったです。しかし自然に関していえば、きのこや猿、りす、冬に行った時には狐の足跡らしきものも見つけ出すことができ、魅力を感じました。ただ単に外国人にテーマパークで遊んでもらうのではなく「百年公園を働く場にしてそこからインバウンドに発展させる」という所は最も工夫した部分で、発表の後、来賓のJTBの方に注目して頂き嬉しかったです。

最初は僕たちの班が、選ばれるとも思っていなかったし、選ばれてからも上手く出来るかととても心配でした。しかし、放課後の少ない時間の中で一生懸命練習することで自信がついてきました。本番でも、ステージで発表する直前まで練習して、自分の仕事が果たせたので良かったです。僕はこういう形で発表出来るととても楽しかったです。研究は終わってしまったけど、百年公園にたまに行ってみたり、インターネットで調べてみたいと思います。

百年公園について調べて、バーベキューコートや花菖蒲園などがあることを初めて知りました。成長するにつれて行く機会は減りましたが、高校生でも十分楽しめると思



います。遊びたいのにお金がないとき、友達とゆっくりしたいとき、まず地元の高校生に百年公園へ行ってみたいと思います。

### 1年4組 「刃物祭りを通してインバウンドを」

私達は中濃地区のインバウンドの課題点を『外国語表記の少なさ』だと考えました。その課題の対策として、関市で行われている刃物祭りの外国語で表記したショップマップを作成することになり、実際に外国人の方々に配布・説明・案内を行いました。この活動を行って行く中で何度も話し合いをする必要があり、多くの時間がかかりました。それでも当日、外国人の方々に感謝の言葉を掛けていただいた時には、達成感を味わうことができました。

しかし、漢字とローマ字の認識の一致ができないなどといった問題点も見つかり、より丁寧な外国語表記が必要だと気付きました。

発表を終えて、自分達のやってきた事が実際にインバウンドと向き合っている方々に認めてもらえた事がとても嬉しかったです。最後まで精一杯やり通して良かったと感じました。私達の活動が少しでも中濃地区のインバウンド誘致に役に立てば嬉しいです。



### 1年5組 「関の刃物で君もSAMURAIに」

#### 《発表内容》

僕達1年5組2班は関市の刃物を使ったアトラクションを考案しました。関市はイギリスのシェフィールド、ドイツのゾーリングと合わせて刃物の3Sと呼ばれるほど人気であるため、刃物に着目しました。ベトナムでの研修の際に、現地の方々に聞いたところ、約20%が「聞いた事がある」と答えました。夏に関鍛冶伝承館とフェザーミュージアムへ、フィールドワークに行きました。職員の方の話では1週間に外国人が30人ほど来ているそうです。

アトラクションで使用する刀は真剣とは違った、居合道で使われている居合刀を使用します。これは他のイベントでも多く使われているそうです。また、斬るものはトマトやトウモロコシなどの中濃産の野菜にしようと思っていて、特に切りがいのある大根を使用します。刀の取り扱い方は、まず頑丈なフェンスの中に1人でフェンスに入ってもらい、居合刀を体験してもらいます。終わったら居合刀を刀回収ボックスに置いてもらわないとドアが開かないようにします。さらに、警備員を配置して何かあった時はすぐに駆けつけられるようにします。

イベント会場はマーゴやイオンなど人がよく集まり、交通の便が良いところにする事で両スポットにも人が集まり、ウィンウィンの関係を築く事が出来ます。そして、それを体験、または知った観光客や外国人に、SNSで情報を拡散してもらい、もっと多くの方に知ってもらいます。また、体験して頂いた方にアンケートをとり、アトラクションをさらに良くしていきます。参加費用については1人2千円と考えています。居合刀1本が約3万円で、人件費なども考えてこの値段にしました。

#### 《工夫など》

ただ発表するだけだと面白くもなんとも無いので、関市の刃物を意識させるとともに、関く人の注目を集めるために、初めに劇を入れました。研究については、ネットの情報が本当



なのかを確かめるために、誰かに聞いたりするなど、情報を集めるのが大変でした。しかし、班内で発表の構成を考えたり、劇の練習をしたりしている時はとても楽しかったです。

### 《発表を終えての感想》

発表はとても緊張しました。しかし、これから生きていく上で、数人で内容を考え、工夫、し大勢の前で発表するという事はあまり無いと思うので、とても良い経験になりました。劇が意外と好評だったのは嬉しかったです。



### 《伝えたい事》

はじめは、このSGH発表会がもっと小さなものだと思っていたけど、意外と大きくて魅力的なイベントだという事を知りました。なぜなら高校入学説明会などでは、あまり印象に残っていなかったからです。だから、夏の高校説明会や合格発表後の入学説明会では、このSGH発表会をもっと強く紹介すべきだと思いました。

## 1年6組 「高山に追いつけ、追いこせ！～イスラエル人を 逃がすな！～」

僕達はSGH の活動のターゲットを「高山」にしました。そして、高山に追いつき、追いこすために、活動を進めました。イスラエル人観光客が増加傾向にあること、中濃地区との関わりが深いことから、イスラエル人を対象にした新ツアーを企画しました。そのツアーは、現在ある「杉原千畝ルート」を改良し、



「新、杉原千畝ルート」と名付け、新たに美濃、郡上を巡るものです。

ツアー実現のために、美濃市、郡上市にヘブライ語会話教室やイスラエル専門窓口を設置するなどして、最終的には、イスラエルと姉妹提携を結ぶという企画をしました。以下のことを心に留めながら、活動を進めてきました。

- ・ツアー企画の際、どういった人を呼び込むか、1つに絞り企画を進めた。
- ・イスラエル人の特徴をよく理解することを大切にしました。
- ・大規模な企画ほど、スムーズに進まず、時間かかる。けれど、その分の成果は得られる。
- ・認められることは、企画を進める上で、大きな糧となる。
- ・データを用いる場合は最も新しいものを用いること。

班みんなが協力して、最後までしっかり意見を伝えられて良かったです。メンバー全員で企画を進めることで、発表が終わった後に大きな達成が得られました。また、SGH 活動は人間力を成長させることができると思いました。例えば、

- ・責任感
  - ・発表の時に落ち着いてゆっくり話す力
  - ・想像力
  - ・客観的にみる力
- といった力です。

## 1年7組 「美濃和紙」

僕たちは「美濃和紙」について調べて、「和紙のポストカード製作体験」を提案しました。この活動において美濃市にある石川紙業さんを2回訪れ、美濃和紙や外国人客についてのお話を聞かせていただいたり、僕たちの提案についてのアドバイスをいただいたりしました。最初の訪問では、『和紙ころころ』という和紙でできたおもちゃの製作体験をしました。そこでは、和紙の良さを感じられるとともに、自分だけの一つしかない『和紙ころころ』をデザインできるので、インバウンドの方気に入ってもらおう工夫が伝わってきました。それを参考に、実際に作って持って帰ることができる和紙を使ったポストカード製作体験を発案しました。

この活動で大切だと思ったことは、発想を実現し、継続することです。この機会に、石川さんをはじめ、数人の大人の方の話を聞きましたがどの人も、継続し10年後まで見据えることが必要だとおっしゃられました。水滴石を穿つという言葉があるように、どんな零細な活動でも続けていけば、大きな結果を伴うということを知りました。逆に企画だけ良くても実行、継続できなければ、腐ってしまうということも感じました。

発表を終えて、これまでの活動を振り返ると、企画の発案から企業の訪問まで回り道はあったけれど、無駄なことはなかったように感じます。どれも自分にとって人生で数少ない貴重な経験となりました。こうした経験をすぐに生かすことはできないけれども、ふと何かに迷ったときにこの経験が僕の背中を押してくれると思うと、なんだか胸があったかくなりました。



### ～安全性の確保～

1:フェンスで  
囲む

2:鎌合刀の受け渡し、  
回収は会場内で

3:フェンスの中に入るのは、1人まで！  
外で監視、緊急時は  
すぐに向かえるようにする